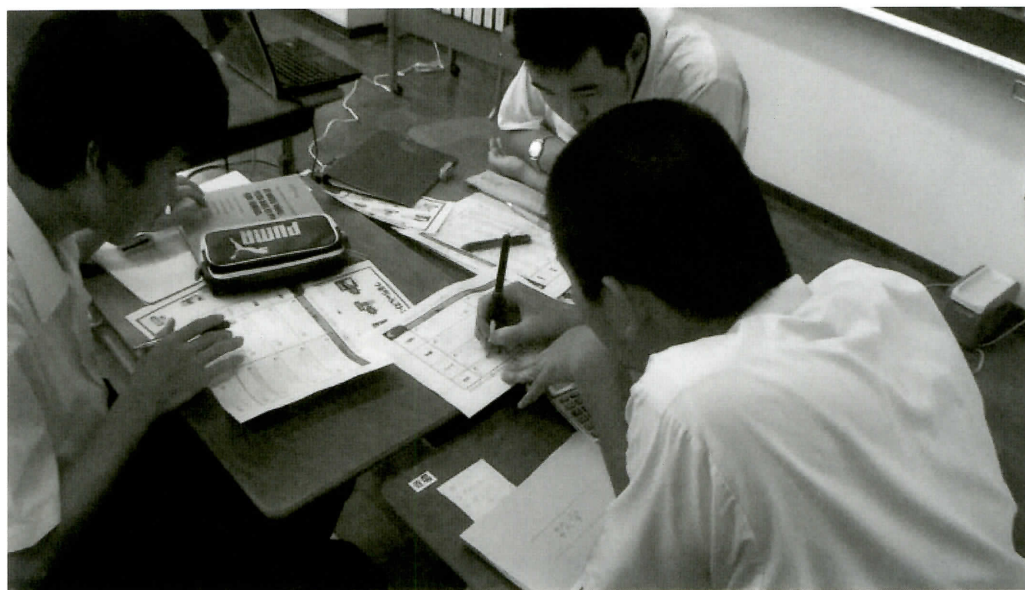


# 今を，将来をよりよく生きる 子どもを目指した授業づくり

～「学び」の連続する授業実践に焦点を当てて～



平成23年2月  
鹿児島大学教育学部附属特別支援学校

## はじめに

校長 新名主 健一

本校では研究テーマ「今を、将来をよりよく生きる子どもを目指した授業づくり～『学び』の連続する授業実践に焦点を当てて～」(2か年計画の2年目)の下、教育実践研究を進めています。

研究目的を、「子どもが、今を、将来をよりよく生きることができるよう、子ども一人一人の『学び』の連続を目指した授業実践の在り方を明らかにする。」と設定しました。その研究仮説は「一連の授業実践において、子どもが『学び』の主体となるための要素を探り、それに基づく授業実践を行うことと、活用の場を明確に意図し、学んだことの活用を見据えた授業実践を行うことの2点に取り組むことで、子ども一人一人の『学び』が連続し、今をよりよく生きる姿が見られ、将来をよりよく生きる子どもの姿につながっていくであろう」というものです。

小学部、中学部、高等部はそれを受けて、「学び」の連続する授業実践の在り方を研究内容としています。研究の柱を授業づくりにおき、その評価を子どもと教師の双方向から行っています。子どもの変容をより客観的に評価し、教師の変容を教師の力量形成という側面から本研究の有効性を検討しています。

ところで、私は国語科教育という分野を専門にしています。その分野での教師論から考えると教師力というのは、心と技の一体的なものということができます。心とは人間としての誠実さであり、技とは方法・技術と考えています。研究に取り組んだ本校の先生方は、技を追求する過程で心へもフィードバックをして教師力を高めたに違いありません。

昨年5月の鹿児島大学教育学部附属小学校、同附属中学校の公開研究会に本校の先生方は全員参加しました。その前に私が先生方に話したことは、参観している授業を特別支援学校で行うとしたらどうなるのか、逆に参観している授業から学べることはないかという二つの視点で見てほしいということでした。

教育的感覚の異同、つまり特別支援教育的感覚とそうでない感覚の重なりは、これまでにない新たな教師論の展開を期待できそうです。そういった意味でも画期的なことでした。

さて、研究の過程で、それまでの自らの教育観が崩壊したり再構築されたりすることは苦痛を伴うことが多く、大きなエネルギーを費やします。しかし、このことを経て教師力は確実に高まると確信します。研究公開に参加されたり、この研究冊子を読まれたりする先生方にもそういうことがあるならば、この研究はたいへん意義深いものだと言えましょう。しかしながら、本研究はまだまだ研究の一ステップを明らかにしただけかもしれません。お気付きの点があれば、どうか忌憚なく御指導、御助言をいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、この2年間、本校の研究に御指導、御助言を賜りました鹿児島県教育委員会、鹿児島県総合教育センター、鹿児島大学教育学部の先生方、全体講演をいただく竹林地 毅先生など本研究に関係していただいた諸先生方に深く感謝申し上げます。

# 総 目 次

はじめに	—————	校 長	新名主健一	
研究基調	—————			1
学部研究	—————			21
小学部の研究	-----			21
中学部の研究	-----			51
高等部の研究	-----			81
研究のまとめ	—————			111
おわりに	—————	副校長	古賀 政文	